

診療科(講座)紹介

- 1) 診療科としては消化器外科(消化管・肝胆膵)、呼吸器外科、小児外科を担当している。
- 2) 第一線の実地臨床から、最先端の医療まで幅広く研修する事が可能。
- 3) 第一外科、第二外科、心臓血管外科の3科が協力し、研修病院の診療実績と各研修医の修練希望とをマッチングさせて研修を行う。

指導医(スタッフ)紹介



消化器・一般外科部長
小児外科部長(教授)
後藤 満一

昭和44年 大阪教育大学附属池田高等学校卒業
昭和51年 大阪大学医学部卒業
主な研修施設・研修病院
大阪府立病院、大阪大学医学部附属病院
臨床専門分野
1) 消化器外科(特に肝・胆・膵)
2) 臓器移植
3) 免疫療法
研究分野
1) 癌免疫療法
2) 拒絶反応制御法
3) 細胞移植の臨床応用
趣味: ワイン、テニス、ラグビー

学会活動

- | | |
|------------------|--|
| 1) 日本外科学会 評議員 | 10) 日本臓器保存生物医学会 理事 |
| 2) 日本消化器外科学会 理事 | 11) 膵・膵島移植研究会 会長 |
| 3) 日本臨床外科学会 評議員 | 12) 日本肝癌研究会 幹事 |
| 4) 日本移植学会 理事 | 13) 日本肝移植研究会 世話人 |
| 5) 日本癌治療学会 評議員 | 14) Transplantation Society |
| 6) 日本肝胆膵外科学会 評議員 | 15) American Society of Transplant Surgeons |
| 7) 日本小児外科学会 評議員 | 16) American Association for Cancer Research |
| 8) 日本肝臓学会 評議員 | 17) American Society of Clinical Oncology |
| 9) 日本組織移植学会 理事 | |



消化器・一般外科
副部長(講師)
木暮 道彦

昭和50年 福島県立原町高等学校卒業
昭和59年 福島県立医科大学卒業
主な研修施設・研修病院
米沢市立病院、福島労災病院
臨床専門分野
1) 消化器外科、食道外科
2) 消化器疾患の鏡視下手術
3) 栄養管理、NST(栄養サポートチーム)
研究分野
1) 食道癌の分子生物学的研究
2) 周術期の生体反応
趣味: 弓道、彫刻



小児外科副部長
(助教・学内講師)
伊勢 一哉

昭和59年 福島県立福島高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
主な研修施設・研修病院
兵庫県立こども病院、福島赤十字病院
臨床専門分野
1) 小児外科
2) 膵島移植
研究分野
1) 小児外科疾患に対する低侵襲性手術
2) 移植免疫



医療安全管理部
副部長(講師)
斎藤 拓朗

昭和53年 福島県立磐城高等学校卒業
昭和60年 福島県立医科大学卒業
主な研修施設・研修病院
福島県立会津総合病院、福島赤十字病院
臨床専門分野
1) 消化器外科(肝胆膵外科)
2) 移植外科
研究分野
1) 肝胆膵癌に対する集学的治療
2) 臓器虚血再灌流障害の機序
3) 移植における免疫寛容
趣味: テニス、マラソン



助教 見城 明

昭和60年 福島県立磐城高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
主な研修施設・研修病院
京都大学附属病院移植外科・南東北病院
臨床専門分野
1) 肝胆膵
2) 移植外科
研究分野
1) 肝胆膵領域癌の外科治療、集学的治療
2) 生体肝移植



呼吸器外科部長
(講師)
鈴木 弘行

昭和59年 福島県立会津高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学卒業
主な研修施設・研修病院
白河厚生病院、磐城共立病院、ピッツバーグ大学
臨床専門分野
1) 呼吸器外科
2) 縦隔外科
3) 癌に対する免疫療法
4) 肺癌化学療法
研究分野
1) 肺癌の分子生物学
2) 癌免疫
3) 腫瘍学
趣味: 読書、ワイン



助教 塩 豊

昭和59年 埼玉県立浦和高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
主な研修施設・研修病院
福島県立医科大学附属病院
臨床専門分野
1) 呼吸器外科
2) 肺癌の化学療法
3) 気胸
研究分野
1) 肺癌の外科
2) 肺癌の化学療法



助教(学内講師)
佐藤 佳宏

昭和58年 福島県立安積高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学卒業
主な研修施設・研修病院
福島県立医科大学附属病院
臨床専門分野
1) 肝胆膵領域の外科
2) 内視鏡外科
3) 移植外科
研究分野
1) 膵島移植
2) 移植免疫学



助教 山下 方俊

昭和60年 雲雀丘学園高等学校卒業
平成7年 福島県立医科大学卒業
主な研修施設・研修病院
兵庫県立こども病院、磐城共立病院、
福島県立医科大学附属病院
臨床専門分野
1) 小児外科
2) 膵島移植
研究分野
1) 小児外科疾患に対する低侵襲性手術
2) 移植免疫
趣味: スキー



助教 大須賀文彦

昭和63年 福島県立会津高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学医学部卒業
平成18年 福島県立医科大学大学院
医学研究科修了

主な研修施設・研修病院
福島県立医科大学附属病院、総合南東北病院、
福島県立会津総合病院

臨床専門分野
1) 消化器外科 (大腸外科)
2) 炎症性腸疾患
3) ストーマリハビリテーション

研究分野
1) 消化器癌の分子生物学的研究
2) 癌免疫
趣味：サッカー

後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒業後3年)	手術経験数100例(内術者30例)術者として、虫垂切除術、痔核手術、乳房切開・排膿術、乳腺腫瘍摘出術、開胸操作、胸骨正中切開および閉胸、主要動脈(大腿動脈など)の剥離テーピング、静脈瘤手術、頸部リンパ節生検などを経験
2年次	手術件数100例(内術者30例)術者として、胆嚢摘出術、乳房部分切除、肺部分切除術、人工心肺装着、ペースメーカー植え込み、末梢動脈バイパス術、腸重積非観血的整復術、鼠径ヘルニア修復術などを経験
3年次	手術件数100例(内術者30例)術者として、胃切除術、結腸切除術、乳房切除術、心房中隔欠損症、腹部大動脈瘤、甲状腺葉切除術、副甲状腺摘出術、睾丸固定術、幽門筋切開術を経験
4年次	手術件数100例(内術者60例)術者として、胃全摘術、直腸切除術、肝部分切除術、乳房切除腋窩リンパ節郭清術、肺葉切除術、大動脈弁置換術、甲状腺葉切除リンパ節郭清術、耳下腺手術、低位鎖肛根治術などを経験

大学院・留学について

後期研修と大学院の併願が可能であり、希望者は1年次から大学院へ入学でき、最短で3年次終了時点での学位取得が可能である。後期研修終了後もしくは大学院修了後には国内及び海外への留学も可能である。これまで、癌の基礎研究としては東京大学医科学研究所、腫瘍免疫学の研究としてピッツバーグ大学、移植医療の研修としてマイアミ大学、ウィスコンシン大学、メリーランド大学、群馬移植の研究としてアルバータ大学、ミネソタ大学などへの留学の実績がある。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

専門医受験資格のためには、最低手術経験数として350例以上(内、術者120例以上)が必要。各領域毎の最低症例数は、消化管及び腹部内臓 50例、乳腺 10例、呼吸器 10例、心臓・大血管 10例、末梢血管 10例、頭頸部・体表・内分泌外科 10例、小児外科 10例、各臓器の外傷 10例、鏡視下手術 10例である。

この他に、業績として、筆頭者として適当と認められた学術集会または学術刊行物に、研究発表または論文発表をしていることが必要である。

後期研修協力病院

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	総合南東北病院	郡山市	寺西 寧	病院長
2	福島赤十字病院	福島市	芳賀 甚市	病院長
3	福島県立会津総合病院	会津若松市	阿部 幹	副院長
4	磐城共立病院	いわき市	管野 隆三	部長
5	公立岩瀬病院	須賀川市	三浦 純一	部長
6	米沢市立病院	米沢市	北村 正敏	部長
7	済生会福島総合病院	福島市	井上 仁	病院長
8	福島労災病院	いわき市	武藤 淳	副院長
9	公立藤田総合病院	伊達郡国見町	寺島 信也	外科長
10	南相馬市立総合病院	南相馬市	金沢 幸夫	病院長
11	南東北病院	岩沼市	吉野 泰啓	副院長
12	福島西部病院	福島市	菊地 節夫	理事長
13	有隣病院	喜多方市	羽田 一博	名誉院長
14	福島県立喜多方病院	喜多方市	浅野 宏	副院長
15	大町病院	南相馬市	高平 浩	名誉院長

指導医からのメッセージ

臓器再生外科学講座は附属病院においては消化器外科、呼吸器外科、小児外科という外科学の主要な診療科を担当しています。患者さまを思いやる気持ちと高度な医療技術の実践を主眼として日々診療と研究に従事しております。

本学の臨床研修における特徴として、より円滑かつ確実に専門医資格を取得することを目的とした後期研修プログラムがあります。これは外科講座および診療科の壁を取り払い、フレキシブルに研修を進めていくことを可能としたプログラムであり、全国でも例をみないきわめて画期的な研修システムとして注目されております。多くの症例の経験に基づき、専門医となるために必要十分な手術手技を取得し、全国レベルで通用する外科医に必ずや育て上げることが約束いたします。さらにこのプログラムにおいては後期研修と大学院とを併願することができます。コーディネーターの誠意あふれる指導のもと研究と臨床研修を両立させる事が可能であり、実際にこのプログラムで多くの研修医が研修を開始しております。研修医の皆さんは、とかく経験症例の数にばかり目がいきがちですが、優れた臨床医として研鑽を積み、将来後進を指導していくためには大学院研究などを通して、洗練された論理的思考を身につけることも大切です。若いうちこそ、質の高い医療を追求する姿勢、一例一例を大事にする姿勢を身につけることが重要なのです。

外科医を目指す、熱い情熱に燃える研修医のみなさん、熱意あふれる当科の指導陣とともに燦然と輝く外科学の将来を見据えた夢と一緒に探求しようではありませんか。